



## 愛知県の 産地の現状

- ❦ 「みどりの食料システム戦略」では化石燃料を使用しない園芸施設への移行が目標とされている。
- ❦ あいち型植物工場として「めぐりログ」等の環境モニタリング機器の導入が進み、施設園芸生産者がハウス内環境を把握できるようになったことから、環境制御技術が飛躍的に向上した。
- ❦ イチゴにおいても光合成に有効な炭酸ガス施用が盛んに行われているが、化石燃料を使用した燃烧式炭酸ガス発生機で、ハウス全体への施用が主体である。



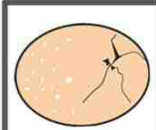
## 農総試での 関連研究成果

- ❦ イチゴやナス、トマトでの環境制御と炭酸ガス施用を組み合わせた栽培技術を体系化してきた。

あいち型植物工場環境制御ガイドライン  
(トマト、ミニトマト、ナス、イチゴ)

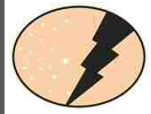


令和4年3月  
愛知県農業総合試験場  
愛知県経済農業協同組合連合会  
トヨタネ株式会社



## 解決したい 困りごと

- ❖ 施設園芸の液化炭酸ガス群落内施用は、燃烧式炭酸ガス発生装置と比較してランニングコストが割高であることから、導入する生産者が少なく、コスト低減が求められている。
- ❖ 液化炭酸ガス施用システムでは、日射量やイチゴの光合成速度の測定、それらのデータに基づいた炭酸ガス濃度や施用する風量等の制御技術が必要とされている。
- ❖ 液化炭酸ガス群落内施用により排出した炭酸ガスのロスを把握するためには、ハウス内外の炭酸ガスの挙動を測定する必要がある。



## 解決案

提案募集番号5-7

キーワード：CO<sub>2</sub>施用による施設園芸の高度化

### 🍁 企業等から排出される炭酸ガスの施設園芸での活用

企業等から排出されるCO<sub>2</sub>を液化炭酸ガスとして精製・貯留するシステムを施設園芸に活用するとともに、化石燃料使用量の削減及び低コストとなる液化CO<sub>2</sub>群落内施用システムを開発する。

また、ハウス内のCO<sub>2</sub>挙動（ハウス外へのロスなど）を明らかにすることにより、カーボンゼロに向けた基礎資料とする。

担当者：園芸研究部・野菜研究室・小野拓生